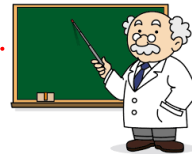


レビー小体型認知症とは？

前回、夏号にて「アルツハイマー型認知症」について紹介しましたが、今回は、「レビー小体型認知症」について、紹介いたします。「レビー小体型認知症」は「アルツハイマー型認知症」について多い認知症です。アルツハイマー型が、女性の発症率が高いのに比べ、レビー小体型は男性の方が多く、女性の約2倍と言われております。



● レビー小体型認知症の主な症状

○ 初期の段階で物忘れより幻視が見られます

認知症というと、物忘れが激しいというイメージを持っている人が多いですが、レビー小体型では、初期の段階で物忘れよりも、本格的な幻視が見られる場合が多くなります。幻視は、「虫や蛇などが部屋にいる」・「知らない人がいる」・「遠くにいるはずの子供が帰ってきている」などと訴え、いるという場所に向かって、話しかけている事もあります。

○ 間違った認識をしてしまう事があります

誤認妄想というものも、レビー小体型では見られやすくなります。まだ働いていると思っていたり、まだ自分は若くて子供も小さいと思っていたりします。また、自宅にいるのに自分の家ではないと思ったり、家族の顔がわからなかったり、家族が誰か知らない人と入れ替わっていると訴える場合もあります。

○ パーキンソン病のような症状が出ます

パーキンソン病と間違われることもあるほど、似た症状が出てきます。手が震える、動作が遅くなる、筋肉がこわばる、身体のバランスを取る事が難しくなるなどの症状が出ます。手の震えは何もしていない時の方が出やすく、物を持つなど何かをしようとすると震えが少なくなります。歩く時は、小股でちょこちょこ歩くようになり、一旦止まってしまうと、次の一歩が出にくくなります。また顔の表情も乏しくなり、笑っても怒っても口元が変わるくらいで、感情が読み取りにくくなります。

○ 頭がはっきりしている時と、そうでない時があり、それを繰り返しながら進行します

アルツハイマー型は徐々に症状が進行しますが、レビー小体型では、頭がはっきりした調子の良い時と、ぼーっとしている時を繰り返しながら進行します。周りから見ると、しっかりしている時もあるため、ぼーっとしている時に、本当はしっかり出来るのにしないだけではないかと思ってしまう、怒ったり無理強いをしてしまう場合があります。

○ うつ症状が出たり、レム睡眠行動障害もみられます

初期の段階からうつのような症状が見られる場合が多く、うつ病と間違えられる事もあります。また、何となく元気がないとか、食欲がないなどの訴えがみられます。この他にも、眠れないなどの訴えもあり、寝ている時に暴れたり大声を出したりする、レム睡眠行動障害と呼ばれる症状が出る事もあります。

健康な脳 と認知症のタイプによる脳の変化



アルツハイマー型認知症
脳の広範囲にアミロイドβやタウと呼ばれる特殊なたんぱく質が溜まり、神経細胞が死滅することで、脳が委縮する



レビー小体型認知症
大脳皮質や脳幹にレビー小体という特殊なたんぱく質が溜まり、神経細胞が壊れて減少する



脳血管性型認知症
脳梗塞などが原因で脳の血管が詰まったり出血したりし、脳の細胞に酸素が送られなくなるため、神経細胞が死んでしまう

● レビー小体型の方への対応の仕方

- 嘘ではなく本人には見えているため、否定してはいけません。
- 話を合わせて安心させましょう。
- 動作がゆっくりでも急かさないのでください。
- 出来ない事は出来ないのだと理解しましょう。

● 対応が難しいと思ったら抱え込まず、専門機関に相談してください

家族の顔がわからなくなってしまうたり、幻視などが見え出すと介護をする家族の負担も大きくなってしまいます。レビー小体型は急激に症状が悪化する場合があります。対応が難しいと思われたら、家族だけで抱え込まず、区役所の福祉窓口や、居宅介護支援専門（ケアマネージャー）等に相談して負担を減らすようにしましょう。